

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 調査事件

(1) 財政健全化に向けた取り組みについて

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、5月26日開催の委員会において、調査のポイントを確認したところであり、本市の財政状況や、見える化の取組などについて理事者から説明を受け、課題等を整理した上で、他都市の取組事例も含めて調査を進めていくことを確認していた。
- ・ まずは理事者の出席を求め、説明を受けたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ 理事者の入室を求める。

（財務部 入室）

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 資料については、お手元に配付をしている。
- ・ それでは、説明をお願いします。

○財務部長（島田 文弘）

- ・ 資料に基づき大きく3点について説明をさせていただきたい。1点目は、本市の財政状況ということで、財政構造の特徴と今後の財政見通しなどである。2点目は、財政健全化に向けた取組ということで、これまでの行革の取組、今後の行革の取組についてである。3点目は、本市の財政状況の見える化の取組ということで、現在、実施している取組の主な内容について説明をさせていただきたい。
- ・ 資料の詳細については、財政課長から説明させる。

○財政課長（八木 浩之）

- ・ 資料説明：「財政健全化に向けた取り組みについて」（令和8年6月3日付 財務部調製）

○委員長（板倉 一幸）

- ・ お聞きのとおりである。
- ・ これについて、各委員から御発言あるか。

○松宮 健治委員

- ・ 市民の危機感はあまり強くないという肌感覚である。先日、党員の学習会をやって、そこで市政はこだて3月号に載っていた予算の円グラフを使って台所事情の説明をしたが、皆さん初めて聞くような顔で、財政厳しいんだねという顔をしていた。
- ・ 一般的な市民が財政に興味があって、ホームページ等を見るのだろうかというところで、そもそも疑問に思っている。見て分かる人は分かるし、分からない人は分からない。
- ・ 要望としては、市民に景気の良い話ばかり言うのではなく、市長自らの言葉で、今、財政が厳しいということ呼びかけるのがとても大事だと思う。

- ・ 実際、貯金を取り崩したわけである。今後は貯金がどんどん崩れていくような事実もしゃべらないといけない。戦略本部を立ち上げたのだから、戦略本部長として、市長からぜひアピールしていただきたい。

○福島 恭二委員

- ・ 我々も他都市を調査し、比較・検討しながら、財政の立て直しという点で取り組まなければならないと思っている。
- ・ 今年の予算も去年の予算も、乾いたタオルを絞るだけ絞って、もう知恵も出ないというところまで絞ってきている状況だと思う。そんな中、トップがどこ行っても景気の良い話ばかりで、財政の話をしたことがないという。市長は観光客の増加について、私のやっていることは決して間違いではないと自慢げに口走っているようだが、この市長になってから観光客が増えたのではなく、先人の残した遺産に基づいて、函館に行ってみたい、函館を知りたいということで観光客が来ている。観光客が増えて、観光産業が増えたとすれば、おそらく観光事業者は人手不足で、人を雇っていくという中で、市内の人だけが雇われているのか、あるいは市外から雇った人がいるのではないかと。人口減少対策の一環になるので、そういう調査をして発表したらいいと言ったことがあるのだが、これに対する当時の副市長から出た言葉は「そういう調査は一切やっていません」というものであった。やっていないなら、やったらいいと言ったが「やったことがないからやらない」と言う。極めて矛盾だらけである。
- ・ 悪いところは隠しておきたいという状態では、市民が知る由がない。トップが財政の現状に危機感を持って対応しないと駄目である。対策委員会を作り、市長をトップにするのは当然な話である。新市長になってから現在までの間にも、トップから財政が逼迫して大変だという話は聞いたことがない。つまり、危機感がない。
- ・ 財務部がやりくりして何とかつじつまを合わせているからどうにかなっているが、一方ではシーリングをやっていて、これは市民サービスの低下である。財政が硬直化して自由に使えるお金がなくなっている。様々な政策を実行するのも、財源が伴わない発想ばかりがどんどん出てくる。実現するにはお金が必要である。財源の裏づけのない政策などあり得ない。そういう裏づけをきちんとするためにも、財政をしっかり確認しなければいけない。
- ・ 仮に令和9年度から財政再建のための対策をやろうとして決まったとする。決まったとしても、来年は選挙で、市民負担もお願いしなければいけないとなったときに、それをすぐに実行できるかというと、おそらくできないと思う。どんどん財政再建が遅れていく。
- ・ 職員の賃金をカットするのは絶対やめて欲しいと思っている。今のままではそうせざるを得ない状況に追い込まれていく。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 福島委員、気持ちはよくわかるが、端的に。

○福島 恭二委員

- ・ 財務部は一生懸命努力をしているから、その真髓をしっかりとトップに伝えて、もうできませんとさじを投げるくらいのことをやらなければ駄目だと思う。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 財政健全化に向けた取組の中で、行財政改革をして、市の職員を減らしていくのは私たちも反対で

ある。

- ・ 函館市は現在、市民と一緒に財政健全化に向けた取組をしているのかしていないのか、これからしようとしているのか、しようしていないのか、そのあたりを聞きたい。市民抜きには絶対この健全化はあり得ないと思うので、お聞きしたい。

○財務部長（島田 文弘）

- ・ これまで市民の方々との合意形成をしてきたのかというお尋ねである。これまで、実は明確に予算編成等において、そういった合意形成をしてきたかという、してきていない。
- ・ 行財政改革推進会議の中で、5名の委員のうち1人、市民公募枠の方がいる。この会議の中で、行財政改革プランの進捗状況あるいは財政の現状等を説明して、意見をいただいているということくらいしか今のところやっていないというのが現状である。
- ・ 財政状況が非常に厳しい中、行革を進めていかなければならない状況であり、やはり市民の方々に負担を強いるケースも出てくる。そういった意味では、今回、総務常任委員会の調査事件で市民との合意形成を他都市がどうやっているのかということを調査していただけるということであるため、私としては、調査結果を踏まえて、どういうことを取り組んでいけるかしっかりと検討していかなければならないと考えている。

○佐藤 留義委員

- ・ 財政については、特効薬というものがない。一般質問で何回か質問しているIRだが、5月22日の政策アドバイザーの意見交換会で2人からIRの話が出た。党派は関係なく、市民や経済界も巻き込んで、函館市で手を挙げ、稼げる函館市でないと、この問題はなかなか無理だと思う。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 他に御発言はないか。（なし）
- ・ 本日は本市の財政状況や見える化の取組などについて確認することができた。財務部においては、お忙しい中、本委員会の調査に御協力いただき感謝する。
- ・ 理事者は退室願う。

（財務部 退室）

- ・ ただいま理事者から説明を受けたが、財政状況の見える化に関する取組について、課題や検討すべき点など、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 市民に向けた財政状況の見える化ということで、財政のことを詳しく知らなかった方にとって分かりやすい資料となっているかといった情報の量と見せ方について、松宮委員からお話があったところである。財政に関する公開情報に簡単にたどり着け、利用できる状態となっているか、また情報が散在せず集約されているかといった情報アクセシビリティがそれぞれ重要な要素の1つとなると考えており、これらの点も含め、先ほどお話いただいた内容からさらに本市の取組に対する所感があればお聞きしたいが、どうか。（なし）
- ・ 前回の委員会でも御発言あったが、財政状況に対する市の認識や危機感、財政健全化に向けた取組などを職員や議会、市民等と十分に共有できているのかという点について、先ほど説明があり、市戸委員からも御質問があったが、それらを踏まえてさらに御発言あるか。（なし）
- ・ 今後の調査だが、これまでの各委員の御意見を踏まえ、前回の委員会でお示した財政健全化の土

壊づくりにおいて着目すべき2つの具体的手法として、本日議論した財政状況の見える化と市民等への協力要請・議論参画機会の充実に関し、先進的に取り組んでいる他都市の事例について、財政の危機的な状況を克服したプロセスも含めてさらに調査を行ってはどうかと考えており、調査の際には、皆様がお考えになっている事柄などについても、御質問や御発言をいただき、調査を深めていただきたいと思うが、そういうことでよろしいか。（異議なし）

- ・ 他都市の事例調査だが、正副としては、前回の委員会でお示ししていた4つの事例のうち、財政力指数などを勘案し、先方の受入れの状況なども考慮し、三重県松阪市と大阪府阪南市を対象に行政調査を行ってはどうかと考えているが、いかがか。（異議なし）
- ・ 調査の日程だが、7月28日から7月30日までの3日間としたいと思うが、いかがか。（異議なし）
- ・ 行政調査時の調査票については、これまでの各委員の御発言や、松阪市と阪南市の取組などを勘案の上、作成することとし、内容は正副に一任願いたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ その他本件について、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 本件については、委員会の閉会中継続調査事件とすることよろしいか。（異議なし）
- ・ ただいま決定した閉会中継続調査事件については、調査の趣旨・目的を踏まえた理由をもって、議長に申し出たいと思う。これに御異議ないか。（異議なし）
- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 2のその他だが、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午後1時31分散会